

**『遊び 学び 育つひろしまっ子!』推進プラン（第2期）」（素案）に係る  
県民意見募集の結果について**

県教育委員会ホームページ等を通じて、御意見を募集したところ、14件の御意見をお寄せいただきました。ありがとうございました。

**1 募集期間**

令和4年1月19日（水）～令和4年2月18日（金）

**2 意見の件数**

14件（9人）

**3 県民意見募集（パブリックコメント）における意見への対応**

項番	意見の内容	県の考え方・対応方針	関連するページ
1	3ページの「幼児の育ちの状況」について、年度比較の差は統計上の有意差として確認されているのか。また、プランに掲載している調査結果について、調査対象やその数についても明記してほしい。	調査結果については、統計的検定により有意差が確認されたものを掲載しております。また、調査対象及びその他の調査結果等の詳細については、広島県教育委員会HPで公表しており、プランへの記載は省略しております。 <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-06-chosa-shiryō.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-06-chosa-shiryō.html</a>	3～6
2	人の成長にとって、人格の土台が育つ乳幼児期はとても大切なので、そこに視点を当てていることがとてもいいと思う。また、乳幼児期は「遊び」の中で社会性など様々なものを身に付けていくので、「遊びは学び」という考え方をクローズアップしていることも重要なことだと思う。	頂いた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。	7～11
3	幼稚園や保育園にはないような本が図書館から借りられるのは素晴らしいと思う。どんどん実施していただきたい。	頂いた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。	17

項番	意見の内容	県の考え方・対応方針	関連するページ
4	<p>「自己評価を実施する園所の割合」を「KPI」に設定しているが、重要なのは、自己評価を実施する園所数の増加ではなく、教育・保育の質の向上ではないのか。</p>	<p>より多くの園・所等において、子供の育ちや学びの見取り等、教育・保育の質の評価が実施され、さらにその評価を踏まえた保育の改善・充実が行われることが重要です。</p> <p>このため、園・所等で日常的に教育・保育のPDCAサイクルが回され、質の向上が図られるよう、引き続き、幼児教育アドバイザー訪問や研修等を実施するとともに、教育・保育の質に関する評価指標及びその指標に対応した実践事例等を検討・開発するなど、教育・保育の質の評価に関する手法開発、実践・検証を進め、その成果の普及に取り組んでまいります。</p>	20
5	<p>小学校に入学する前に、その雰囲気慣れるために、子供が小学校の授業を体験できるような取組もおもしろいのではないのか。</p>	<p>頂いた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	25
6	<p>スマホ育児が幼児にどのような影響を与えるのか心配である。親へしっかり啓発していくべきではないか。</p>	<p>スマートフォンやタブレット等のデジタル機器の長時間の使用は子供の心身の発達へ影響を及ぼすことが懸念されています。このため、乳幼児の家庭でのデジタル機器との付き合い方などについて、保護者に分かりやすく伝える啓発リーフレット等を作成して提供するなどの取組を進めてまいります。</p>	26～ 28
7	<p>乳幼児期の親に伝えたい内容の発信について、「伝わる」ということは、相手が腑に落ちて、行動に移すことだと思う。引き続き、押しつけ感のない内容を提供するとともに、「届けたいけれども届きにくい親」へ伝えるための取組をお願いしたい。</p>	<p>子育てに関心のある親、そうでない親にかかわらず、全ての保護者に必要な学びを届けられるよう、多様な場や機会を活用した適切な情報や学習機会の提供に取り組み、保護者の共感的理解を図ってまいります。</p>	26～ 28

項番	意見の内容	県の考え方・対応方針	関連するページ
8	<p>保護者は悩みながら、子育てをしており、何よりも養育者(特に母親)の精神面の安定が、子供の健全な成長につながると思う。「子育て支援(特に母親に対する)」を充実させてほしい。</p>	<p>家庭をとりまく環境の多様化などにより、多くの保護者が子育てについて悩みや不安を感じていることから、安心して適切な子育てができるよう、親の育ちを応援する学びの機会をさらに充実させるとともに、地域における家庭教育支援のための人材育成・体制整備を進め、家庭教育支援の充実に取り組んでまいります。</p>	26～31
9	<p>地域では、いろいろな支援活動やイベントが行われているが、知らない親も多いと思うので、そうした情報が家庭へも届くようにしてほしい。</p>	<p>園・所等やネウボラ拠点を始め、子育てアプリやSNS、ショッピングセンターのフードコートなどの子育て家庭が訪れやすい場の活用など、それぞれの家庭の状況に合わせた、多様な場や機会を活用した適切な情報の提供に取り組んでまいります。</p>	26～31
10	<p>「あそびのひろば」が、子供と保護者にとって、「まだやってみたい!もっとやってみたい!次もやってみたい!」と思えるような場のモデルとなることを期待する。</p>	<p>頂いた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>	29
11	<p>「あそびのひろば」ファシリテーターは、具体的にどのような人をイメージしているのか。人生経験を積んだ大人もいいが、子供にとっては、お兄さん、お姉さんのような立場の人が一緒に遊んでくれるのも楽しいのではないか。青少年が子育てに関するボランティア活動に積極的に参加できるような仕組みづくりをお願いしたい。</p>	<p>「あそびのひろば」ファシリテーターは、子供の体験活動や家庭教育支援を行う地域のボランティア人材を想定しています。</p> <p>「あそびのひろば」の実施に当たっては、地域の中高校生や大学生等のボランティアを募集するなどして、運営の工夫を図ってまいります。</p>	29
12	<p>子育てについて親になってから学ぶのでは遅すぎる。中学・高校の時期等から学校現場で学ぶ機会が重要ではないか。普通の保護者は、保育・教育を学ぶ機会もなく子育てに参入し、日々新しい壁に直面し、地域の支援施設につながることなく孤立し、虐待等に帰結してしまうこともある。もう少し予防的・開発的な取組案を取り入れてみてはどうか。</p>	<p>将来、親になる準備期の学習機会の充実に向けて、中学校・高等学校の段階から、子育ての意義、親や家族の役割、子供との関わり方等を学ぶことができるよう、助産師・保育士等の外部講師の派遣や紹介を行うほか、家庭科の授業等において、生徒と乳幼児との触れ合い体験を実施している事例等の情報提供を行ってまいります。</p>	30

項番	意見の内容	県の考え方・対応方針	関連するページ
13	<p>近所の支援センターで子供と遊んでいる際に、スタッフの方からの声掛けで、子供を見る視点に気付かされ、気持ちが少し楽になった。子育て家庭を応援する人が増えてほしい。</p>	<p>各地域を基盤に、保護者に寄り添う様々な取組が展開されるよう、地域のボランティア人材の育成や「家庭教育支援チーム」の組織化支援に取り組むほか、「ひろしま版ネウボラ」の仕組みを生かした家庭教育支援の充実など、地域における家庭教育支援のための人材育成・体制整備を進めてまいります。</p>	30～ 31
14	<p>保護者も忙しく、コロナ禍で一層接点を作ることが難しい状況だとは思いますが、家庭だけでなく、祖父母世代なども協力し、地域ぐるみで子育てができるような社会づくりに取り組んでほしい。</p>	<p>全ての子育て家庭を地域社会全体で支援していく重要性を強く発信するため、施策4「家庭教育支援の充実」において、家庭や地域社会との連携を推進し、子育て家庭を応援しようという社会的気運の醸成を図る普及啓発を行うほか、家庭教育を支援する地域の基盤形成の取組を進めていくことを追記します。</p>	30～ 31

※ 県民意見募集（パブリックコメント）でいただいた御意見のうち、内容について原文を一部要約又は分割して掲載しています。